



【ご挨拶】

例年になく遅い梅雨開けと同時に、猛暑がやってきました。急な暑さに対応できず、夏風邪をこじらせる患者さんが増えています。

風邪は万病の素と言われるように、耳鳴り、めまい、難聴など多くの症状につながります。エアコンや扇風機の風を直接当ててはいけません。顔面麻痺をおこしたり、乳幼児は命にかかわる場合も出てきます。必ず風をまわして間接的に当ててください。

また熱中症予防として、しっかり汗をかいて、しっかり水分補給をすることが、体温調節の基本です。(冷やし過ぎ・飲み過ぎにはご注意ください。)

按腹のポイントは、暑さで心臓に負担がかかりますから、肋骨内側全体を軽くさす必要があります。そして暑さで気が上がりますから、脇腹の期門・章門(肋骨の際)あたりを使って、上手に下げてください。夏風邪が治りにくい時は腎を使い、下腹をグッと持ち上げるように按腹してください。

少しの気遣いと、毎日の按腹で猛暑を乗り切りましょう。

【活動情報】

パーキンソン病

70代男性の患者さん、足が前に出にくい、バランスが取れない、右目がやや外に向きピントが合わないなどの症状があり、先行きに不安を感じながら来院されました。

パーキンソン病は脳の障害ですが、お腹は全体がはっている実実で、一見どこに反応があるのかわかりにくい形です。パーキンソン病とレビー小体病は症状が似ていますが、お腹の形も似ています。

打鍼を使って皮膚表面の反応を探し、4ヶ月ほどの治療ですが、順調に回復しています。歩くバランス、目の具合などの症状が改善するとともに、気持ちが前向きになり、希望を感じながら暮らせるようになりました。

実実のお腹

夢分齋はこのお腹を枝が折れるがごとく、突然病に襲われ死に至ると言っています。実実のお腹は皮膚さえも摘まめない、ではどのように治療すれば良いか？ 仕上げの手技を使います。無理に摘まず、皮膚の上を滑らすように指を絞っていきます。滑らせながら指先で虚の場所を感じ取るのです。小さい粒々が指先に当たります。ザラザラした感じにも似ています。

打鍼する場合、最近は打鍼棒を使わず木槌だけでお腹を刺激します。点ではなく面で軽く叩きます。

気のクリーム

気の成分であろう物質を特定し、自らを実験台にして毎日塗り続け、数ヶ月経ちました。結果、取れにくかった腰回りの邪が削り取られ、背中にかけてスッキリしてきました。体重も1.5kg減りました。その成分を多角的に分析します。身体のタンパク質合成、代謝物への影響、遺伝子や染色体への影響はどうか？ 傷ついたDNAを修復できる作用があるのか？ 研究の先は長いです。

学会の設立

ある按腹ファンの方が後ろ盾になってくださり、学会を立ち上げることになりました。今準備が進んでいます。立ち上げには3人の博士が必要で、メンバー3人がそのために論文を書きます。「気の正体」「お腹文化・日本の医学史」「御園夢分齋の打鍼の研究」などをテーマに考察します。

YouTube 会員についてのお問い合わせ先

【へそ按腹普及会 (すぎやま按腹鍼灸院内)】

電話：03-6206-2666

メール：heso.ampuku.hukyukai@gmail.co